

高山城跡の歴史

高山城は、文安年間（1444-1449）に飛騨国守護代多賀徳言によって築かれ、天神山城、多賀天神山城と呼ばれたと言われています。その後、永正年間（1504-1521）に飛騨国守護佐々木氏の一族である高山外記が在城したものの、永禄元年（1558）には三木自綱に討たれ、自綱の叔父久綱が入城しました。この頃の高山城（天神山城）は、本丸は今の高山城跡と位置を同じくしますが、その他の曲輪は本丸の南側にあったとされます。

天正13年（1585）に三木氏は金森長近の飛騨攻めにより滅亡し、その後飛騨一国を領した長近が新たな高山城を築きました。天正16年（1588）、または同18年（1590）から築城を開始し、完成に16年間かかったと伝えられています。金森氏が6代にわたり在城しましたが、元禄5年（1692）に出羽上山（現在の山形県山市）へ転封となり飛騨は幕府直轄領、高山城は加賀の前田氏が預かることとなりました。

加賀藩は城の管理のために数百人を半年交代で派遣しなければならず、その負担は非常に大きなものでした。元禄8年（1695）に幕府へ申し出て高山城の取り壊し（破却）が決まりました。2か月ほどで城内の建物や石垣、庭木に至るまでが撤去され、現在ではわずかに残った石垣が確認できるのみとなっています。

高山城跡の概要

高山城跡は、市街地の東南に位置する標高686mの城山山頂に本丸、北側の中腹に二ノ丸、その下に三ノ丸があります。三ノ丸は一部が水堀に囲まれています。

加賀藩が残した絵図には、本丸に風呂や茶室を備えた屋形、二ノ丸に藩主の住まいであり政庁でもある二ノ丸屋形と6代頼岑の母、庭樹院の屋敷、三ノ丸に勘定所と年貢米を収める土蔵があったことが描かれています。

江名子川と宮川に挟まれた部分が旧城下町と

なり、高台に武家地、低地に町人地が配置されていました。

これまでの調査

調査年	調査箇所	調査内容
昭和60年 (1985)	本丸	発掘調査：風呂、縁側の礎石、犬走を確認
	二ノ丸唐門	測量調査
昭和61年 (1986)	本丸	発掘調査：本丸屋形礎石、玄関石段などを確認
	三ノ丸水堀	発掘調査：墨書のある木製品、建築材などが出土
平成7年 (1995)	石垣	測量調査：本丸、二ノ丸
	金森将監屋敷跡	発掘調査：造成状況と庭園遺構を確認
平成12年 (2000)	中段屋形北側竖堀	測量調査
令和6年 (2024)	城山	微地形表現図を作成
令和7年 (2025)	二ノ丸北側石垣	測量調査

これまでの調査成果は、『高山城跡発掘調査報告書Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』（1986、1988、1996）、『高山市内遺跡発掘調査報告書』（2005）、高山市ホームページに掲載しています。

全国文化財総覧
(発掘調査報告書)



高山市HP
(高山城跡測量調査)



高山市教育委員会 文化財課

〒506-8555 高山市花岡町2-18
TEL: 0577-35-3156 FAX: 0577-35-3172
e-mail: bunkazai@city.takayama.lg.jp

令和8年（2026）8月22日（土）

高山城跡二ノ丸石垣調査
現地説明会資料

高山市教育委員会



高山城跡微地形表現図（2024年作成）



二ノ丸石垣調査位置図

令和7年度に、二の丸遊園地の北側に残る石垣の測量調査を行いました。

この石垣の存在は以前から知られていましたが、今回の調査で金森氏時代の石垣が一部残されていることが分かりました。

元禄5年（1692）から元禄8年（1695）まで高山城の管理を担った加賀藩が残した「高山城曲輪配置図」には、二ノ丸の東北隅に小さな折れのある石垣が描かれており、位置や形状からこの石垣は二ノ丸鬼門櫓の石垣と考えられています。

元禄8年の高山城破却の際には、建物だけでなく石垣も壊されたため金森氏時代の遺構はあまり残っておらず、この石垣はわずかに残された貴重な遺構です。

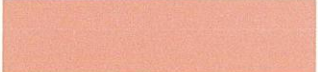
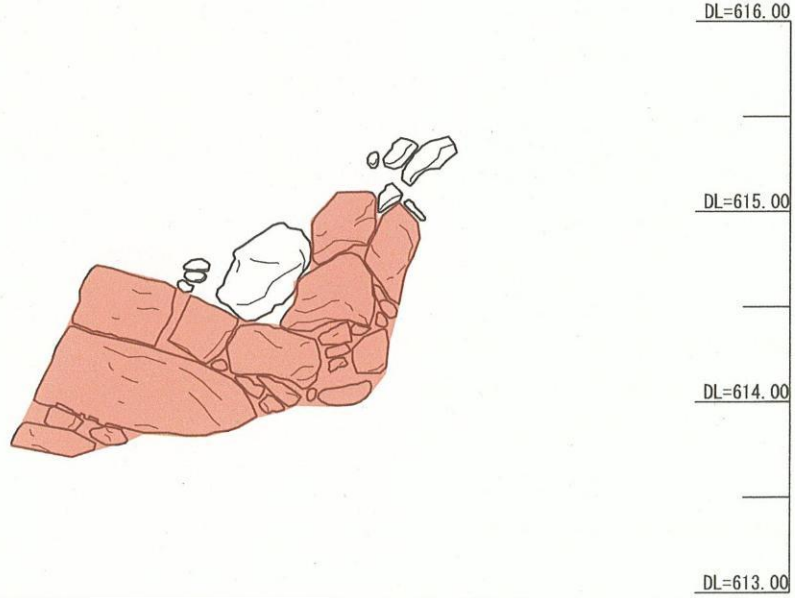
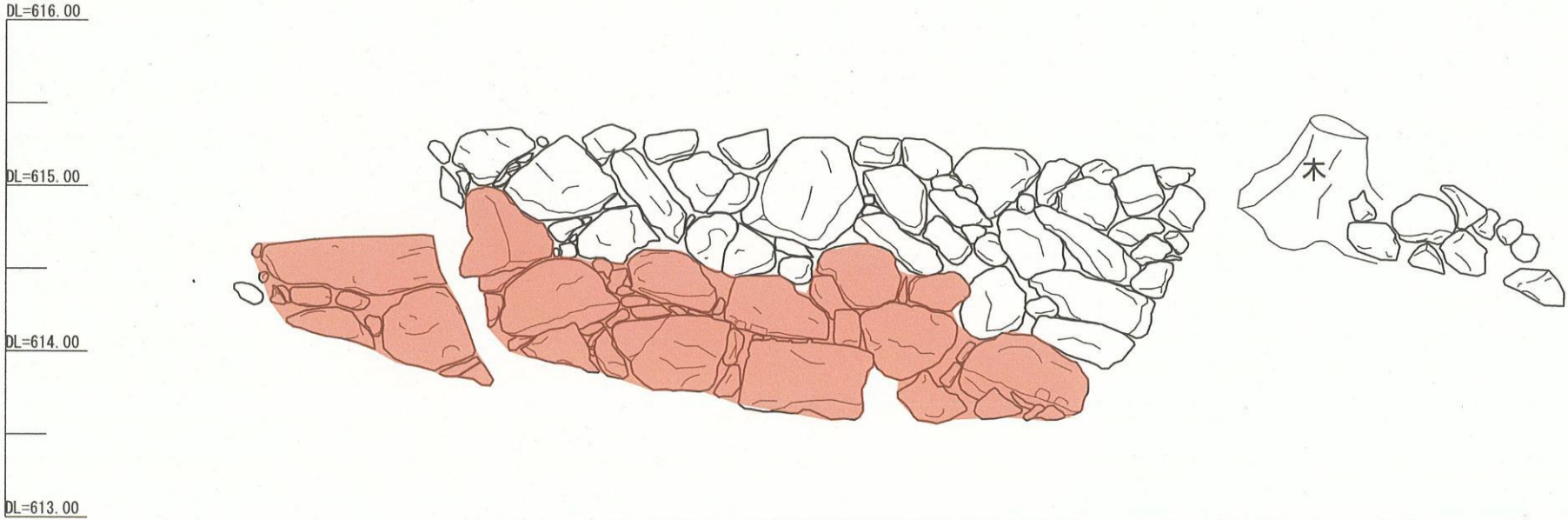
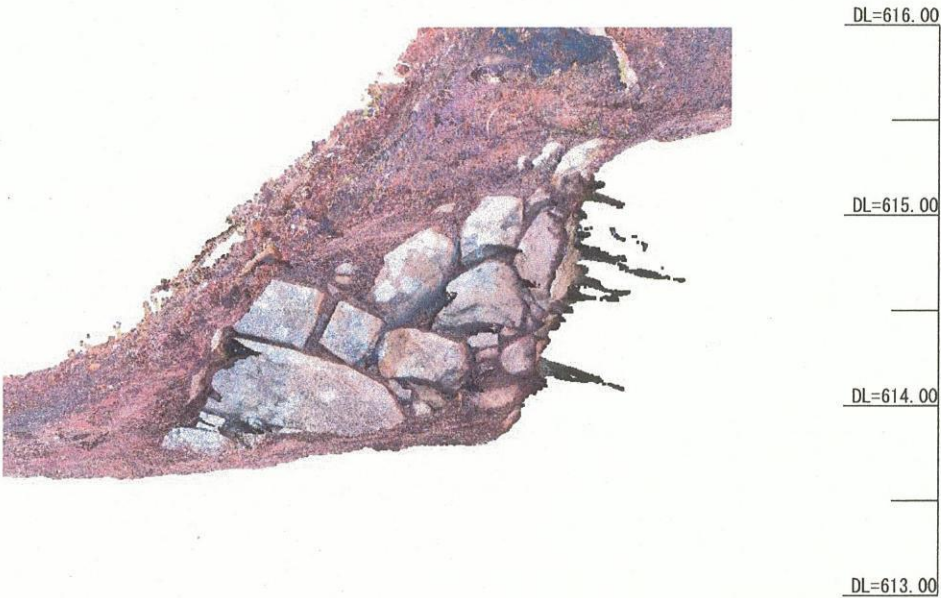
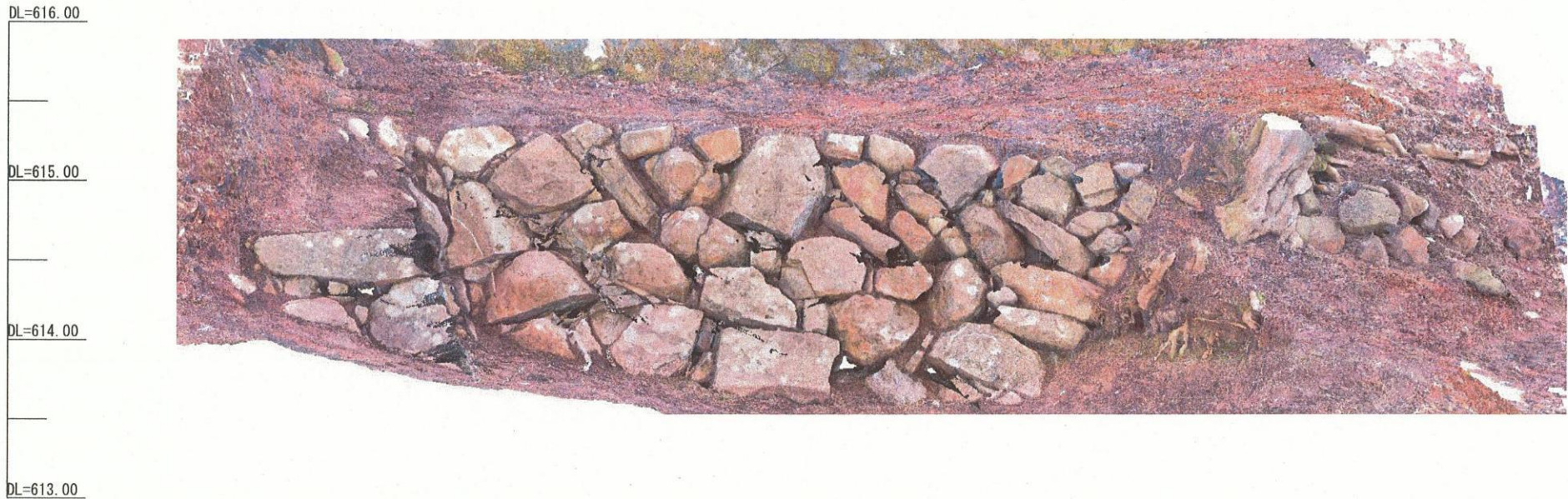


高山城曲輪配置図（部分）

『高山市史編集資料第1号 高山城下町絵図』掲載 第38図

高山城 ニノ丸石垣

調査した石垣は長さは約8m、高さは約1.7mです。算木積みの隅部や、間詰石が入る下部に金森氏時代の石垣が残されていますが、一方で上部は落し積み（谷積み）になっており、後世に積み直されたと考えられます。落し積みは、江戸時代中期以降の積み方で、斜めに据えた石と石の間に上の石を積んでいきます。特別な技術がなくても安定した石垣が築けるため、宅地や田畑の段差、用水路の護岸に多用されました。一部の石材には、石を割ったり切り出したりした際の矢穴が残っています。積み直しされたと考えられる部分に使用されている石材にも矢穴があるため、城の破却の際に崩され放置されていた石材を再利用したようです。この石垣の位置や形状から、加賀藩の残した絵図に描かれた「鬼門櫓」の石垣である可能性が考えられます。



金森氏時代の石垣

